

「嵐山町土砂災害ハザードマップ」を作成しました

埼玉県では、土砂災害危険箇所を対象とした基礎調査を行い、調査結果を公表した後、土砂災害による危険等が生じるおそれのある区域を、「土砂災害警戒区域」及び「土砂災害特別警戒区域」として指定しました。

このたび、町民への周知と地域において安全な避難場所や避難経路を検討すること、活用されることを想定し、土砂災害ハザードマップを作成しました。

「土砂災害警戒区域」には「土石流」、「急傾斜地」及び「地滑り」の3種類があり、このうち、嵐山町には「急傾斜地」の崩壊（いわゆる「がけ崩れ」）の危険指定が37箇所あります。



「嵐山町土砂災害ハザードマップ」は町ホームページに掲載しています。

嵐山町役場危機管理幹 山口明夫さんにインタビューしました

山口危機管理幹は、消防職員として旧玉川村における粉塵爆発による大火災や、ときがわ町弓立山の大规模山林火災の消火活動に参加経験があります。また、東日本大震災時の緊急消防援助隊に選定されるなど、消防・防災のスペシャリストです。

「今回の特集記事は「豪雨に備える」ですが、最近の気象状況について特徴があれば教えてください。」

規模が全く違います。近年では「局地的集中豪雨が短時間で繰り返される」というような気象状況が常態化してきていますよね。「記録的短時間大雨情報」という、以前にはなかった気象情報まで発表されるようになってしまいました。

「豪雨時などに嵐山町で想定される災害の特徴は何ですか。」

局地的集中豪雨による河川増水のための冠水・浸水、また土砂災害警戒区域における土砂崩れの発生などが想定されます。嵐山町は丘陵地帯に位置しますので、上流で降った雨により川の水量があつたという間に増えてしまう恐れがあります。

「それは大変怖いですが、このような急な雨が降りやすい時期に特に気をつけなければならぬことは何でしょうか。」

現在は台風シーズンの真っ只中です。近年は10月まで暑い日が続くことが多く、急な豪雨になることも珍しくありません。スマートフォンをお持ちであれば、天気予報アプリを入れ、気象庁のホームページをお気に入り登録するなどして、最新の情報に注意してください。特に、「自分の身は自分で守る」という意識を持つことは重要です。



「例えばお子様が出かけるときは、どこに行くのか、誰と一緒になのか、天気の急変には注意しよう、など、声を掛け合ってください。併せて「家の近所の避難場所はどこか」など、災害が起こる前の事前の確認は非常に有効です。

「では、町はどのような取組をしているのでしょうか。」

7月には「土砂災害ハザードマップ」が完成しました。嵐山町のどの箇所が土砂崩れの危険区域なのか、是非一度ご覧ください。また、局地的豪雨に伴う避難情報の判断材料の一つとするため、8月には役場庁舎に簡易気象計を新設しました。このデータは他の地域も含めてインターネット上で公開されています。また、町内に12ある自主防災会と協力して、防災訓練や防災資機材の整備などを行っています。

「最後に、全体的な「防災」を考えたとき、大切なことは何でしょうか。」

大雨や地震等による災害全般において大切なことは「自助・共助」と言われています。その中でも、まず何より「自助」が大切であると思います。つまり、自分自身や家族の身の安全を守るということ。このためには、災害における気象情報の入手方法や意味を理解することは大変有効だと思えます。災害時に、情報を知っている、いないでは大きな差があります。そういう「自助」がまずあつて、次に「共助」が成り立ちます。災害の規模が大きいかどうかはわかりませんが、住民の皆様からの「避難所の準備をしてほしい」「備蓄食料を持ってきたら欲しい」等の要望に対する行政側のマンパワーは、圧倒的に不足しています。いざという状況の中で力を発揮するのは、顔見知りである「ご近所の人たち」です。普段からご近所の人たちとの付き合いを大切にしていると、いざという時にはお互いに助け合うことが出来ます。地区の防災訓練等が開催される際は隣近所の皆様で声を掛け合つて、積極的に参加し、「顔見知り」を増やしてみてください。

避難をする時のポイント

豪雨で避難をする場合、以下のポイントが重要だといわれています。

○危険を感じたらすぐに逃げましょう

豪雨の場合、防災行政無線などが聞こえない場合があります。突然の豪雨では、避難情報の確認も間に合わない場合があります。危険を感じたら自らの判断ですぐ逃げましょう。

○水平避難が無理なら垂直避難を

夜間で見通しが悪い場合など、外に出ての移動（水平移動）が危険な場合、高い階や高い場所に移動（垂直移動）し、救助を待ちましょう。

○避難したら戻らない

安全が確認できるまで、避難所から自宅に戻ることは避けましょう。

【避難のポイント】

- ・ブレーカーを落としましょう。
- ・安全な服装で避難しましょう。
- ・ロープでお互いをつなげましょう。
- ・歩ける高さで避難しましょう。
- ・足元に注意しましょう。

最新の気象情報を確認しましょう

気象条件が不安定なときは、天気が急に変わることがあります。出かける前にテレビや携帯電話等で最新の気象情報をチェックするようにしましょう。また、以下の公共機関において、メールサービス等を行っています。是非登録してみませんか。

■埼玉県防災情報メール（埼玉県）

県内で発表された各種注意報、警報や震度情報、気象情報などをメールで配信します。

■高解像度ナウキャスト（気象庁）

5分ごとの降水の強さと範囲を30分先まで250m四方の細かさで表します。

■嵐山町あんしんメール

町の防災・防犯情報、火災放送を除く防災無線の放送内容、イベント・観光情報、その他緊急情報を送付します。

■嵐山町公式ツイッター

通常は町の観光情報やイベント情報を掲載しますが、災害時には防災情報等を掲載します。



高解像度
ナウキャスト

いつもの備えが大切です～備えよ 常に「Be Prepared」～

地震のみならず、気象災害でも日頃の備えが必要です。

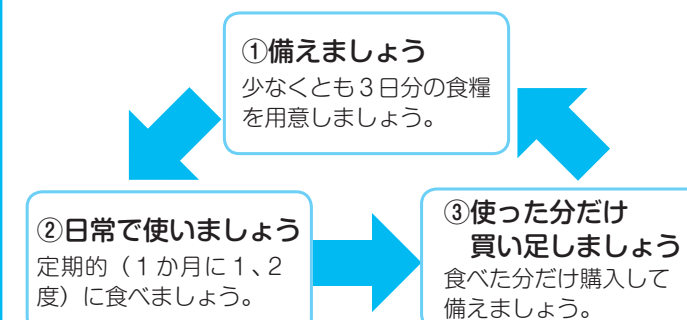
大規模災害が発生した場合、過去の事例では支援物資はすぐには届かないことが多く報告されています。皆さんも少なくとも3日分の食糧・水などの備蓄をしましょう。

◆備える物品チェックリスト

- | | | |
|---|----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 非常食(レトルト・缶詰等)
最低3日分 | ☐ 着替え | ☐ はさみ・カッター |
| ☐ 飲料水(1人1日3リットルが目安)
最低3日分 | ☐ 筆記用具 | ☐ ガムテープ |
| ☐ 懐中電灯 | ☐ タオル | ☐ ロープ |
| ☐ 軍手 | ☐ レインコート | |
| | ☐ 救急袋 | |
| | ☐ 医療・衛生用品 | |
| | ☐ 予備電池 | |

◆消費しながら備えるローリングストック法

「食べずに置いておく」のではなく、決まった日に「食べながら備蓄する」方法です。災害時に消費期限を過ぎた食料を食べることなく安心して行える備蓄です。



【便利な情報】

ローリングストック法で日常の食材を多めに準備しておいても、ガス・水道・電気が止まり、調理できないことが予想されます。そこで役立つのが「カセットコンロ」です。カセットボンベは1本で約60分使用可能といわれています。1か月使用する場合、約15本必要です（1日30分使用の場合）。

